子安地蔵尊大法会

7月24日㈮ 午前8時半より

消しゴムはんこ　高橋正人 作

轉法輪

夏月の涼風、
冬天の淵風、
一種の気なれども
嗔喜同じからず
弘法大師

令和二年七月一日発行
発行所　犬飼山轉法輪寺
〒六三七－〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七－二二－四四〇三
FAX〇七四七－二五－四七一七
編集発行人　桑山聖淳
印刷所　森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

まぶしい陽射しをさえぎる木立の陰を渡りながら、境内の掃除にいそしむ毎日です。皆さまも暑さに負けず、ご活躍のことと存じます。

さて、本年の子安地蔵尊法会は、例年より時間を遅らせての開式と致します。「新しい生活様式」に沿った法要を行うにあたり、皆さまにはご不便をおかけする点が多いかと思いますが、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

地蔵尊法要

地蔵堂にて　午前八時半
永代供養水児幼没霊の御回向

大教堂にて　午前十時
水児幼没霊供養
先祖諸霊供養
安産子授け・無事成長祈願
【地蔵尊祈願札・御守り授与】

午前中に終了します

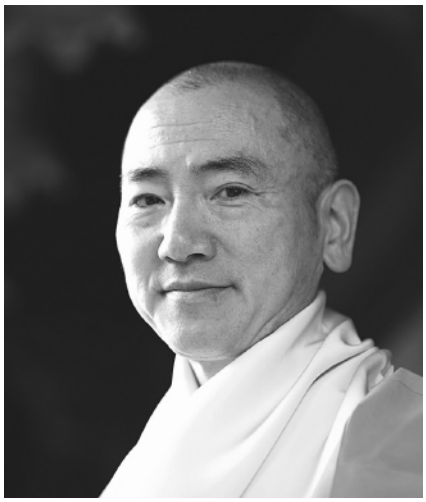
お供養・ご祈願は同封の申込み用紙をお使い頂き、寺務所へお持ち頂くか、ご返送をお願いいたします。

犬飼山轉法輪寺

お大師さまのお言葉　夏の涼しい風に心地よさを感じ、冬の北風には怒りすら思う。同じものでも、自分の受け取りかた次第で良くも悪くも変わってしまうものだ。

般若心経の功徳

轉法輪寺住職　桑山慈紹



新型コロナウイルスの脅威は、中国、日本は言うまでもなく、全世界に及び、これまでに※四十四万人の尊い命が失われました。それは未だに収まる気配がありません。※(令和2年6月19日現在)

このような疫病はお大師様の時代にもありました。弘仁九年（西暦八一八年）の春、全国的に疫病が大流行し、その猛威に数多くの生命が奪われ、国民は苦悩と恐怖のどん底に沈みました。当時は治療に何ら手の施しようがなく、時の嵯峨天皇は深く心を痛められて、鎮静の方法を空海大師に相談なされました。

お大師様は、疫病退散の修法を行われる一方、天皇には般若心経を写経されるようお勧めになりました。天皇はただちに紺紙に金泥で心経を書写され、大師は天皇に般若心経の講義解説を始められました。すると、御進講が結願に至らぬうちに功徳が現れ、猛威をふるった疫病が収まり、闇夜のごとき社会はたちどころに変じて光明に輝いたと般若心経秘鍵に記されています。その時のお大師様は、右手に利剣を持たれ修法なされましたので、畏くも秘鍵大師と奉るのでございます。

般若心経は、その題名が示すとおり、仏説（釈尊の説く）魔訶（偉大なる）般若（仏の智恵）波羅密多（悟りに至る）心経（最勝の経文）であり、「大いなる仏智によって仏の救済を得る最も勝れたお経」ということです。この世に仏の世界を築き、苦しみと、あらゆる対立を無くするものは、真実の智恵と、仏心すなわち慈悲の心である、と説かれています。

私たちには、お大師様のような尊い力は無いかもしれません。しかしながら、一人一人の小さな願いが一つになる時、一筋の水の流れがやがて大河となるように、大きな岩を動かす力になると思います。新型コロナウイルスの早期終息のため、それぞれのお立場で、更に力強い祈りをお願い申し上げます。私も微力ながら毎日ご祈念させていただいております。

南無大師遍照金剛　　合掌

生かせいのち

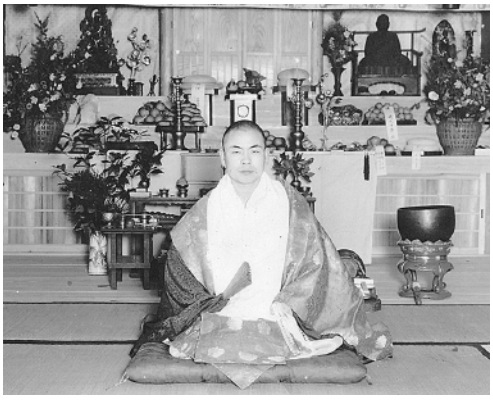
【第六十五話】

名誉住職　桑山聖規

人の一生には「もしもあの時…」という偶然が、いくつかあるのだろうか。

私の場合も、高野山の修行を終え、地元名古屋に帰る電車が橋本駅止まりでなければ、そして少しでも故郷の近くへと、五條駅へ向かわなければ、五條とのご縁はなかっただろう。さかのぼれば、若いころに交通事故に遭わなければ、仏縁もなかっただろうし、肺病でなければ戦地で死んでいたかもしれない。全てが神仏の御加護とも、「おまかせ」ともいえる。

そのおまかせというのも、やはり自分自身「こうありたい」という強い願いが、本尊様の御心に叶うとき、そしてご先祖様の後ろだてがあってこそ、少しずつ、少しずつ前に進んでいくものだろう。



弱冠24才。最初に僧侶としてスタートをきった井上院。小さなお堂で、毎日たくさんの方をご祈願した。

現在96才。70年振りに井上院の本尊様を拝む。当時のことが思い出され、懐かしさがこみあげる。寝泊りをした部屋も当時のままだ。

※井上院は、無実の罪で五條に流された井上内親王の菩提寺である。

正御影供法要御礼

お世話人様はじめ篤志の皆さま方には正御影供にあたり多くのご支援賜り心より感謝申し上げます。

本年の正御影供は、緊急事態宣言中の執行となり、他府県のお方様には参拝自粛をお願いすることとなりました。大変申し訳ありません。

しかしながら、オンライン上での法要配信を始める機会となり、今後はご自宅でも法要に参拝して頂けます。轉法輪寺YouTubeチャンネルのご登録よろしくお願いします。

YouTube

轉法輪寺
YouTubeチャンネル

水児の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時からお勤めを致します。

ハガキ絵の便り

坂田笑津子

御縁のできた方たちにハガキ絵の便りを差し上げています。上手いとは言えませんが、心をこめて描いています。

「これで〇枚目もらいました。友人に見せたら、『若い女の人から、こんなのもろて幸せでんなぁー』と羨ましがられています」と楽しい返事がきます。私は若くはないのですが、二回り年上の人からすると、若い女の人になるようです。また「あなたの便りが、どれほど幸福を与えてくれるか想像できますか」。お尻がこそばゆくなるような返事をくださる方もいます。そのたびに、私はとても幸せな気持ちになります。

先ごろは、こんなことがありました。差し上げた便りに返事がなく、いつもなら携帯メールが必ずあるのに、どうしたのだろうと心配していると、次のような手紙が着きました。

「便りが届いたころ、落ち込む出来事が続き辛い時だったので、読んで思わず涙がこぼれた。嬉しかった。遠くで自分の事を気にかけてくれている人がいると思うと心強かった」

携帯電話は水に落とし、データがすべてダメになったのだと。彼女は近畿から四国に単身移り住み、農業に就いている四十代。海外ボランティアにも挑戦しようとするくらい自立心がある、しっかりとした女性。

それでも、気の弱る時があったのでしょう。そんな時に、つたないハガキ絵の便りが、少しでも彼女を励ますことができたのだと思うと、私もうれし涙がこぼれました。

これからも、心に小さな明かりを灯せるような、ハガキ絵の便りを届けたいと思います。

〈寺嫁日記〉

あした天気になあれ

その八

小松裕衣

休校・自粛生活が続く毎日ですが（令和二年五月のことです）、小学五年生になった長男嵩典（たかのり）を筆頭に、わが家の子どもたちは賑やかに過ごしています。

毎年、嫁ぎ先のお寺では、五月八日にお釈迦さまの誕生を祝う「花祭り」があります（一般的には四月八日に行いますね）。今年は残念ながら、お祭りは中止となったのですが、母が花御堂を出して、甘茶を煮出してくれました。次男照典（あきのり）はこの甘茶が大好きで、「おいしいなぁ」と言いながら味見。子どもたち全員そろってお参りすることができました。

右手の人差し指で天を、左人差し指で地をさしているお釈迦さまを不

家相・方位の相談をお受けいたします。新築・リフォーム・転宅の際はご相談ください。

思議そうに見る子どもたち。「お釈迦さまが生まれた日、天から喜びの甘い雨が降ったの。だからこうやって甘茶をかけてお祝いするのよ。お釈迦さまはこのポーズで、〝天上天下唯我独尊〟と言われたの。仏教の始まりなんだよー。」「ふうん…。」おばあちゃんの言葉にうなずきながら、一人ずつ甘茶をかけ手を合わせました。

続いて本尊様にも手を合わせて、般若心経をお唱えしました。四才の義典はまだ字が読めないのですが、一人前に経本を持って唱える真似をしていました。

台所に戻ってから、照典が「おばあちゃん、仏さまって、目が見えてるの？」と聞きました。たしかに、お寺のご本尊様はまぶたを下ろしているように見えます。「見えとるよ～」とおばあちゃんが答えたので子どもたちはびっくり！「え！うす目を開けてみてるの!?」と聞くので、家族で大笑いしました。

「目は閉じておられるけど、ぼくたちがお参りして、手を合わせる姿を喜んでおられるんよ。この子はええ子や、守ってあげようと思って下さる。村のお地蔵さんや、ほかの神様も同じやで。頭を下げて手を合わすんやで。目には見えなくても心は伝わるんや。」おばあちゃんの言葉は、子ども達の心にすっと、しみわたったようでした。

思えば、実家の近くにもお釈迦さまをまつる「釈迦寺」というお寺がありました。学校に行くのも、お寺の横を通って通学。帰りには、友達とのおしゃべりの場所として。秋祭りやクリスマス会など、四季を通じて私たちの憩いの場でした。私たちの成長も、お釈迦さまはうす目をあけて嬉しそうに見られていたのでしょう。

来年の四月からは、地元の小学校もなくなり、子どもたちの声が聞けなくなって、お釈迦さまもちょっと、さみしくなるかな…。仏さまや地元のおじさんおばさん、おじいちゃんやおばあちゃん、たくさんの人たちの思いや願いの中で子どもたちは育っていくのですね。

お大師様の腕の中

大阪府　匿名希望

中学生の頃、伯母に連れられて、初めて轉法輪寺にお参りしてから二十七年。人生の折々にお参りさせて頂いています。

そんな私も母となり、第三子の出産も間近のある日の参拝のこと。ふと伯母に「教堂にもお参りしようか」と誘われました。私はこれまで教堂

《ものづくり教室開講中》　毎月第2土曜日10時～16時
陶芸と消しゴムはんこを作ります。大人も子どももご一緒にどうぞ！

に上がったことがなく、是非にと思い、初めてお参りしました。お大師様の前に座らせて頂いて、立派なお姿に驚きながら、ありがたい気持ちで帰ったことを覚えています。

それから数日後……深夜に帰宅した夫を待っていたかのようなタイミングで破水をし、陣痛が始まると、増していく痛みの中で不思議な体験をしました。

目を閉じ、痛みに耐えていると、まぶたの裏に教堂のお大師様の姿が見え、その腕の中に私が赤ちゃんのように抱きかかえられているのです。何とも言い表しようがないほどの心地よさと、守られている感覚で幸福感に包まれました。それが一度ではなく、陣痛のある時だけお姿が浮かび、痛みが消えるとともに消えるのです。今まで感じたことのない感覚に、驚きつつも幸せな出産でした。それから十二年が経ち、小学六年生になった娘は、勉強・スポーツともに充実した日々を送っています。

今もお参りに行かせて頂いた際は教堂に座らせて頂きます。人生の折々で悩む時、しあわせな時、様々ありますが、手を合わせると胸が温かくなり、背中を撫でて頂けた感じが致します。それがまた一歩を踏み出すための勇気につながり、帰り道は心が軽くなります。いつもお守り頂いていること、とても有り難く思っております。

南無大師遍照金剛

合掌

―お手紙より抜粋―

いま私は、シングルマザーとして三人の子どもと生活しています。今に至るまで、どうすることもできない状況に、一時は自暴自棄になり、泣きながらお寺に駆け込んで名誉住職さま、住職さまにお話を聞いて頂いたこともありました。

訳あって、母というものを知らずに育った私ですが、日々何が正解かと自問自答しながら、母として、時には父役になり過ごしています。このような生活になり四年が過ぎました。いまは三人の子を私に授けていただき、母親とさせてもらっていることが、とても有り難く感謝の日々です。自棄（やけ）になっていた頃を思い出し、もし子ども達がいなかったら、私はここにいないかも、と思います。お大師様や子ども達、色々な方に生かして頂いていると感じます。

子ども達も高校三年、高校一年、小学六年と成長し、日々その姿がたくましく見えます。いつからか、母として必死で前を歩く日々から、先をゆく子ども達を、見守り歩く私に変わっていることを感じます。

有難いなと思う気持ちが心の中から湧き出るような日々を送らせて頂いている毎日にとても幸せを感じます。本当にありがとうございます。

ご詠歌をお唱えしたい方を募集しています。犬飼詠歌講では少人数で
気遣いなくご詠歌を覚えられます。各地の巡拝でもお唱えできます。

梵鐘

今春、みなさまはいかがお過ごしでしたか。境内の木々の手入れのためにホームセンターに行くと、園芸コーナーが普段以上のひとだかり。これを機に新しい趣味に挑戦される方も多いようです。

お寺のお参りものんびりしていたので、ずっと気になっていたことに手を着けました！それは、転法輪寺歴代住職さんたちの歴史年表作りです。初代や二代目はお寺の案内をする際に紹介をするのですが、それ以降はというと、正直なところ、墓石で目にする程度です。七十二人もおられるというのに、ほとんど知らないでは済まないなぁと、過去帳を片手にとりかかりました。

幸運なことに、轉法輪寺の過去帳は良い状態に保たれていて、かなり詳しく書かれています。何代目はいつお寺に来て、いつ亡くなった。出身は〇〇の国で△△家の出身である、どういう行事をした、というようにです。北は岩手県の盛岡市から西は島根の隠岐の島まで。早くに亡くなられた方もおられれば、数十年と住職だった方もおられます。

初代は西暦八一六年の道和（どうわ）法師から。「八一六年ねぇ…」遠い記憶の中で日本史をたどります。

「源氏平氏の争いがあって、鎌倉時代。応仁の乱。延暦寺焼き討ち、キリスト教伝来、黒船来航、世界大戦…。」振り返ってみれば長い歴史で当然のこと、文字通り時代がひっくり返るような大事件がたくさんありました。飢饉や疫病で数万人が亡くなった記録は何度もあります。

「その時の轉法輪寺は、どんなふうだっただろう…」田舎とはいえど、大きな政治改革や災害は避けようもありません。それでも、過去帳にはしっかりと、その時の住職さんの名前が記されていて、途切れていないのです。現在よりずっと情報が少ない中で、必死で踏ん張って、お寺を守ったのだろう、次の世代にバトンを渡してきたのだと伝わってきます。

良い時も悪い時も波のように繰り返して、今がある。このコロナ禍のなかで、おのずと過去帳を手にしたことは、誰かに示されたかのようです。いま大変なことが起きているとしても、一度は倒れたとしても、また立ち上がることが出来るんだよと、先師住職さま方に教えて頂いたように思えます。

お世話人さま募集！檀家さんに限らず、信心を持って行事のお手伝いしてもらえる方であれば大歓迎！お大師さまの教えの輪を広げましょう。

よだれかけ製作のお願い

今年もよだれかけを作ってくださる方を募集します！ 7月24日の地蔵尊大祭で祈願させて頂いたよだれかけは、一部はお参りの皆さまにお持ち帰り頂き、残りは高野山奥の院参道におられるお地蔵さまに掛けさせて頂きます。

寸法通りに裁断した布も用意してあります。色柄などは問わず、ご自身で作っていただいても構いません。出来上がったよだれかけは、轉法輪寺までお持ち頂くか郵送にてお届けください。

昨年のよだれかけ着けに参加された方のお便りを掲載します

一の橋から奥の院までの参道には、大小さまざまな沢山のお地蔵さまがおられ、「オンカカカビサンマエイソワカ」と唱えながら一体一体向き合って、苔やほこりをブラシや布で払います。グループのお地蔵さまにはお揃いの柄のよだれかけを、大きなお地蔵さまにはレース付きの大きなものを…。私たちも楽しみながら着けていると、お地蔵さまもほほえんでおられるように見えて、私自身の心にも優しさが湧いてくるように思えました。

昨年は腰椎ヘルニアになり、苦しみの一年だったのですが、多くのお方のお陰で無事に完治することが出来ました。この機会にと、祖母の袈裟と念珠をかけて参加させてもらいました。かけ替えをする中で、お地蔵さまの柔和な顔、にこやかな顔、笑っているような顔…一時でも静かに息を整え、祖母の思い出を胸に、心のやすらぎを得られた一日でした。

今年も新しいよだれかけを持って、奥の院へお参りしたいと思っています。
ご一緒される方はご連絡ください。

7月30日㈭ 橋本駅 南海電車 8:30 集合予定です